

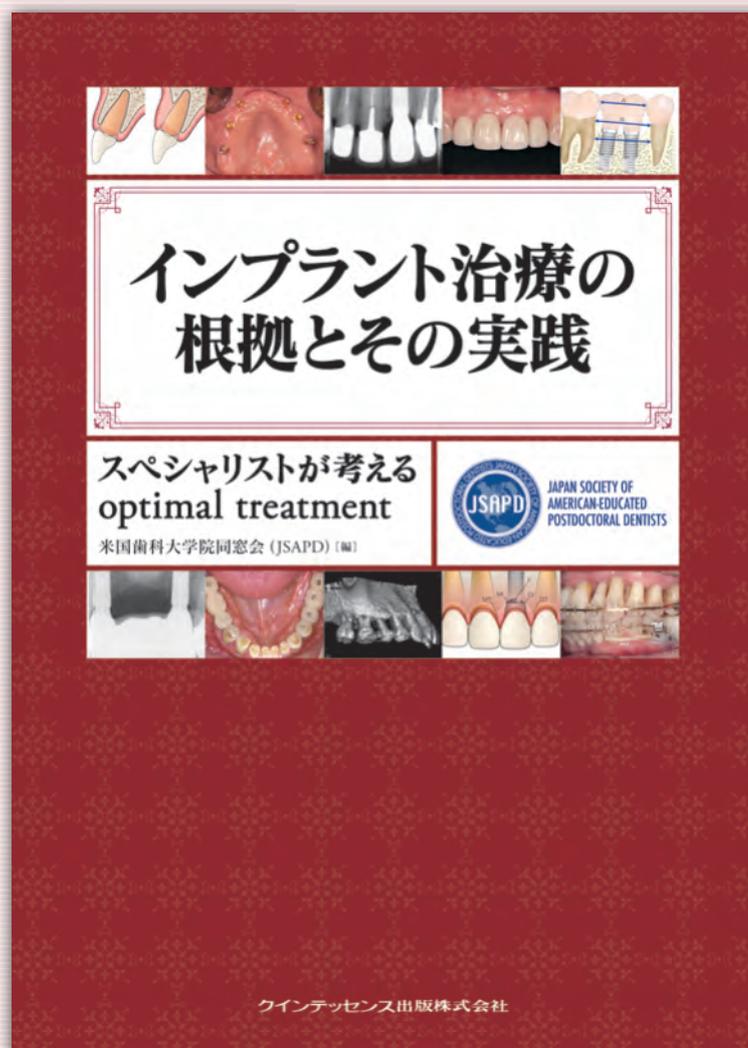
インプラント治療の 根拠とその実践

米国歯科大学院同窓会(JSAPD) [編]

そのインプラント治療の「根拠」は明確ですか？

—臨床的判定要素でわかる・引ける！治療計画の要—

本書は臨床医が目の前の患者さんに対する「インプラント治療」の妥当性を総合的に検討・評価していくための臨床的判定要素を網羅。診査・診断から治療計画の立案、メンテナンスまで各治療段階でエビデンスを参照しつつ、意思決定にあたっての検討事項が症例と共に解説されている。妥当性のある治療の実践にあたっての必読の書。



■目次■

- 第1章 保存か、抜歯か？その判断基準
- 第2章 治療計画
- 第3章 治療の実践
- 第4章 インプラント患者の長期的管理

●サイズ:A4判 ●288ページ ●定価 本体15,000円(税別)



クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 <http://www.quint-j.co.jp/> e-mail mb@quint-j.co.jp



シリアスな執筆陣による、シリアスなインプラント解説書

第1章 保存か、抜歯か？その判断基準 歯内療法、歯周治療、補綴治療の見地から

A. 歯内療法の見地から

- A-1 歯内療法専門医が考える保存と抜歯の基準①
診断学に基づくディジションメイキングの考え方
- A-2 歯内療法専門医が考える保存と抜歯の基準②
当該歯の予後判定から見た抜歯基準
- A-3 歯内療法専門医が考える保存と抜歯の基準③
全身状態を考慮にいれた治療計画例から
- A-4 歯内療法専門医が考える保存と抜歯の基準④
生物学的要因と患者利益から考える抜歯基準

B. 歯周治療の見地から

- B-1 歯周病専門医が考える保存と抜歯の基準①
一般開業医の立場からの見解-予後分類と患者利益-
- B-2 歯周病専門医が考える保存と抜歯の基準②
役割分担を明確にしたデンタルセンターにおける歯周病専門医の立場からの見解
- B-3 歯周病専門医が考える保存と抜歯の基準③
根分岐部病変を抱える白歯をどうするか？

C. 補綴治療の見地から

- C-1 補綴専門医が考える保存と抜歯の基準①
補綴治療の成功に関するリスクアセスメントの必要性
- C-2 補綴専門医が考える保存と抜歯の基準②
重度に歯質が欠損した歯に対する補綴処置
- C-3 補綴専門医が考える保存と抜歯の基準③
治療が広範囲におよぶケースにおける、予後が疑わしい歯の診断基準
- C-4 補綴専門医が考える保存と抜歯の基準④
見込みのない歯が必ずしも使い物にならないわけではない

A-3 歯周病患者に対するインプラント治療③

歯周インプラント補綴 (perio-implant prosthesis: PIP) で対応した症例

A-4 歯周病患者に対するインプラント治療④

歯周病患者に対し、インプラント治療を行うときの必要条件とは
A-5 インプラントに隣接もしくは近接する天然歯の保存・抜歯
インプラントに挟まれた天然歯を抜歯して行ったインプラント治療

B. 力に対する対応

- B-1 力に対する対応
破折から見た10年間-セメント維持からスクリーン維持へ変換した症例-
- B-2 さまざまな上部構造の素材の選択
各コンポーネントに応用されている材料の比較と考察

C. 審美的対応

- C-1 上顎前歯部の審美性
上顎前歯・失敗を避けるためのガイドライン
- C-2 インターディシプリナリーアプローチによる審美性の確保
治療計画の流れからその実践まで

D. 最新技術の供覧と評価

- D-1 コンピューターガイドドサージェリーとCAD/CAMによる補綴物作製
インプラント治療の精度とレベルを向上させる最新機器
- D-2 上部構造のデザイン: スクリュー維持か、セメント維持か
ジルコニアを応用するための3つの要点

E. 矯正専門医とのインターディシプリナリーアプローチ

- E-1 矯正治療を併用した症例①
固定源としてインプラントを利用し病的な歯の移動 (PTM) を改善した症例
- E-2 矯正治療を併用した症例②
歯周病により咬合崩壊した症例の咬合再構築例

F. インプラント治療における顎位と咬合

- F-1 インプラント治療と顎位
安定した顎位を求めることの重要性
- F-2 インプラント治療と咬合
インプラント補綴の咬合
- F-3 解題 インプラント治療における顎位・咬合に関する考察

第2章 治療計画

A. 治療計画立案のためのエビデンス (根拠)

[判定要素1] 全身的状态 / [判定要素2] 歯周病の既往 / [判定要素3] 従来補綴特有の課題1 う蝕の既往 (う蝕活動性) / [判定要素4] 従来補綴特有の課題2 歯内療法の予後 / [判定要素5] 従来補綴特有の課題3 ポストコアのリスク / [判定要素6] インプラント治療特有の課題 / [判定要素7] 3本ブリッジ (従来補綴) とシングルトウスインプラントの予後 / [判定要素8] インプラントブリッジの予後 / [判定要素9] 審美性の重要度と可能性 / [判定要素10] 治療費用 / [判定要素11] 治療期間 / [判定要素12] 修理の容易さ / [判定要素13] 予測余命 / 補足 インフォームドコンセント (説明と同意)

第3章 治療の実践

従来補綴またはインプラント補綴で対応したさまざまな症例

A. 保存・抜歯をめぐる対応

- A-1 歯周病患者に対するインプラント治療①
咬合性外傷をともなう広汎型中等度～重度慢性歯周炎患者への治療から
- A-2 歯周病患者に対するインプラント治療②
患者の主訴をふまえた適切な治療計画の立案とは

第4章 インプラント患者の長期的管理

A. 歯周病とインプラント周囲病変の管理

- A-1 歯周組織、インプラント周囲組織のメンテナンス
歯周組織、インプラント周囲組織のメンテナンス
- A-2 インプラント周囲病変への対応
インプラント周囲病変、その診断と治療

B. インプラント補綴のメンテナンス (狭義のメンテナンス)

- B-1 インプラント補綴特有のメンテナンス
メンテナンスを考慮した大白歯部インプラントの設計とは
- C. インプラント患者の長期的管理 (広義のメンテナンス)

- C-1 長期的管理を実践している症例①
歯周病患者へのインプラント治療のリスクをどうとらえるか
- C-2 長期的管理を実践している症例②
歯周炎の患者にインプラント治療を行った症例
- C-3 長期的管理を実践している症例③
歯周病専門医が考え、実践したインプラント患者の長期的管理
- C-4 長期的管理を実践している症例④
インプラント患者の長期的管理-その現実的対応-

きりとり線

注文書

インプラント治療の根拠とその実践
スペシャリストが考える optimal treatment
モリタ商品コード:805581

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送りさせていただきます。